

**令和5年度 山形県公立大学法人
第2回経営審議会
第2回教育研究審議会（米沢栄養大学）
第2回教育研究審議会（米沢女子短期大学）
議事録**

1 日時 令和5年10月4日（水） 14:00～14:50

2 場所 B号館 2階会議室（オンライン併用）

3 出席者

<経営審議会>

（出席） 学内委員：阿部理事長、大和田理事、金光理事、菌部理事

学外委員：加藤理事、清野理事、宮原委員

（欠席） 学内委員：渡辺理事、松井理事

学外委員：黒田（三）委員

※委員10名中7名出席、定款第16条の規定により会議成立

<教育研究審議会（米沢栄養大学）>

（出席） 学内委員：阿部学長、大和田理事、金光理事、成田委員、安部委員

学外委員：清野理事、吉池委員、熊谷委員

（欠席） 学内委員：小池委員

※委員9名中8名出席、定款第20条の規定により会議成立

<教育研究審議会（米沢女子短期大学）>

（出席） 学内委員：阿部学長、菌部理事、石崎委員

学外委員：清野理事、結城委員

（欠席） 学内委員：松井理事、小池委員

学外委員：黒田（充）委員

※委員8名中5名出席、定款第20条の規定により会議成立

<監事>

（出席） 高石監事、羽生田監事

<事務局職員>

（出席） 佐藤次長、井淵課長、佐藤課長、佐々木専門員、鈴木主査、永峯主査、川越主査

4 議事録署名人の指名

阿部理事長から、加藤理事（経営審議会）、成田委員（教育研究審議会[栄養大]）、石崎委員（教育研究委員会[米短大]）の3名が議事録署名人に指名された。

5 報告

(1) 山形県公立大学法人評価委員会による令和4年度業務実績評価について

事務局から報告資料1により報告がなされた。

宮原委員から、大変よい状況にあるとの意見があった。

吉池委員から、自己評価Aのところを外部の目から見てS評価をいただくのはとても素晴らしいことだと思うとの意見があった。また、栄養大の一般選抜志願者倍率4.6倍は18歳人口が減少し

ていく中でこれからも妥当な目標なのか、入学者の点数のレベルをどのように捉えるかとの質問があった。これに対し、阿部理事長から、目標倍率の数値は過去2年間の平均値で設定しており、倍率が高低を交互に繰り返す隔年現象の影響で非常に高い目標値となってしまう、この設定方法だと数値だけで評価した場合努力を評価できない部分が出てきてしまうのではないかと評価委員からの指摘を受け、今後学内で検討しなければならないと考えている、また、数値目標は達成できなかったものの前年と同程度の学力水準にある学生を確保できたことは、学内では評価に値すると考えていることを評価委員会でも申し上げたとの回答がなされた。吉池委員から、公立大学でも国立大学のように毎年の業務実績評価を設置団体が実施しない代わりに数値目標を重視するという動きになっているので、より慎重に数値目標や指標の妥当性、その解釈を考えなければならない状況となっている、毎年の評価の代わりに指標管理をすることに関して今後どのような予定になっているのかとの質問があった。これに対し、阿部理事長から、数値目標を機械的に平均値で設定する方法には問題があると認識しており学内で検討しているところであるが、今後相対的に動く数字ではなく、本学の志願倍率はこのレベルという絶対値のような一つの評価の基準を設定できればと考えているが状況によっては難しいところもある、数値目標に代えるかどうかは県と相談しながらになるが、年度目標や年度評価によって業務の執行がスムーズになる部分もあることから現在は様子見の段階であり、すぐに数値目標へ切り替える動きにはなっていないとの説明がなされた。吉池委員から、本当に意味のある数値目標なのか、一応KPI的に捉えているが本当のKPIなのか、公立大学だと県内就職率ということが言われるが、本当にそれだけがゴールなのかいうところも含めて、本質的に大学のあるべき姿とそれを可視化するための指標との関係性を勉強していかなければいけないとの発言があった。結城委員から、毎年度の業務実績評価は評価する方もされる方も大変な労働であり、評価が過剰なのではないかと長年思っており、国立大学法人は簡素化されたので公立大学法人も評価作業の合理化・効率化を念頭に置いてぜひ検討いただきたいとの発言があった。阿部理事長から、評価項目をどれだけ減らしていくかも重要なポイントだと思っているが、その代わり全体に数値評価をしていかなければならないところをどう捉えていくか、今後の検討としていきたいとの発言がなされた。

(2) 令和6年度入学者選抜について

事務局から報告資料2により報告がなされた。

(3) 令和5年度卒業予定者の進路状況について

事務局から報告資料3により報告がなされた。

清野理事から、就職内定率の推移を見ると今ほどこも人手不足ということもあり、栄養大は右肩上がりの高いレベルを保っている一方、米短大では平年並みか若干低くなっていることから、その特徴と今後の取組みについて質問があった。これに対し、事務局から、令和5年度8月末は28.8%と例年と比べ若干低くなっているが、令和3年度を見ると最初は令和2年度、令和4年度と比べ順調だったものの最終的には低くなっている、内定率は学生から報告を受けて集計しているので、後期日程が始まり学生が大学に戻ってきた現在はもっと改善しているものと考えている、また、最終的な就職内定率の向上に向けて、キャリア支援センターや教員を中心に学生の支援を実施していくことや、企業にも働きかけ就職面談会等を引き続き開催していきたいとの説明がなされた。阿部理事長からは、コロナが5類になり県内企業のバスツアー等も再開されているが学生の志向と合わないことや、企業側が4年生大学生を優先して採用し、短大生の採用が遅くなる傾向にあることから、この時期は就職内定率が若干上がってきていない状況にあり、委員からも県内企業等にいろんな形で紹介や推薦していただければ有難いとの発言がなされた。

(4) 山形県立米沢栄養大学教員の公募について

事務局から報告資料4により報告がなされた。

(5) 理事長選考会議の議決事項について

事務局から報告資料5-1により報告がなされた。

6 協 議

(1) 令和5年度補正予算（第2号）について

事務局から協議資料1により説明がなされ、案のとおり承認された。

高石監事から、増額補正した大学施設維持管理費5,277千円の内容として手洗い場等自動水栓化とあるが、蛇口をひねるタイプから手を近づけると自動で水が出る設備に交換したのであれば、設備の価値を高めたこととなり固定資産に計上する考え方もある、その場合建物附属設備の給排水設備に計上することとなり、経費の増加ではなく資産の増加という形で処理認識すべきもののように思うがどうかとの質問があった。これに対し、事務局から、決算書類を作成する際はそのような扱いになると考えているとの回答がなされた。高石監事から、今回は予算上の取扱いと理解したと発言があった。

(2) 山形県立米沢栄養大学教員の任用（採用）について

事務局から協議資料2により説明がなされ、案のとおり承認された。

7 その他

(1) 今後の審議会の開催日程について

事務局からその他資料1により説明がなされた。

【配付資料】

- 報告資料1 山形県公立大学法人評価委員会による令和4年度業務実績評価について
- 報告資料2 令和6年度入学者選抜について
- 報告資料3 令和5年度卒業予定者の進路状況について
- 報告資料4 山形県立米沢栄養大学教員の公募について
- 報告資料5-1 理事長選考会議の議決事項について
- 協議資料1 令和5年度補正予算（第2号）について
- 協議資料2 山形県立米沢栄養大学教員の任用（採用）について
- その他資料1 今後の審議会の開催日程について

議長 理事長(兼)学長 _____

議事録署名人 _____

議事録署名人 _____

議事録署名人 _____